

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局 国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道32号 綾南・綾歌・満濃バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 四国地方整備局						
起終点	自：香川県高松市西山崎町 至：香川県仲多度郡まんのう町買田	延長	21.7km								
事業概要											
<p>国道32号は、高松市を起点に、綾川町、丸亀市綾歌町、まんのう町を經由して高知市に至る延長L=138.5kmの主要幹線道路である。過去、沿道地域は主に住宅地として発展してきたが、近年は、商業・工業施設などの進出も見られる。</p> <p>綾南・綾歌・満濃バイパスは、沿道地域の生活環境を改善させ、さらに交通流の円滑化と交通安全の確保、都市間及び空港、港湾のアクセス性の向上などにより地域の文化・経済・産業の発展に寄与するものである。</p>											
S47年度事業化	S57年度都市計画決定 (S59, 60, H4, 14変更)	S50年度用地着手	S53年度工事着手								
全体事業費	約676億円	事業進捗率	99%	供用済延長	21.7km(暫定)						
計画交通量	16,600~39,700台/日										
費用対効果分析結果	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px solid black;"> B/C (事業全体) 2.6 (残事業) 4.9 </td> <td style="width: 50%;"> 総費用 (残事業)/(事業全体) 17/1,028億円 (事業費: 2/908億円) (維持管理費: 14/121億円) </td> </tr> </table>	B/C (事業全体) 2.6 (残事業) 4.9	総費用 (残事業)/(事業全体) 17/1,028億円 (事業費: 2/908億円) (維持管理費: 14/121億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 81/2,647億円 (走行時間短縮便益: 53/2,401億円) (走行経費減少便益: 19/185億円) (交通事故減少便益: 10/61億円)	基準年 平成22年						
B/C (事業全体) 2.6 (残事業) 4.9	総費用 (残事業)/(事業全体) 17/1,028億円 (事業費: 2/908億円) (維持管理費: 14/121億円)										
感度分析の結果											
<p>残事業について感度分析を実施</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">(残事業) 交通量変動 : B/C=5.4 (交通量+10%)</td> <td style="width: 50%;">B/C=4.4 (交通量-10%)</td> </tr> <tr> <td>事業費変動 : B/C=4.8 (事業費+10%)</td> <td>B/C=5.0 (事業費-10%)</td> </tr> <tr> <td>事業期間変動 : B/C=4.9 (事業期間+10%)</td> <td>B/C=4.9 (事業期間-10%)</td> </tr> </table>						(残事業) 交通量変動 : B/C=5.4 (交通量+10%)	B/C=4.4 (交通量-10%)	事業費変動 : B/C=4.8 (事業費+10%)	B/C=5.0 (事業費-10%)	事業期間変動 : B/C=4.9 (事業期間+10%)	B/C=4.9 (事業期間-10%)
(残事業) 交通量変動 : B/C=5.4 (交通量+10%)	B/C=4.4 (交通量-10%)										
事業費変動 : B/C=4.8 (事業費+10%)	B/C=5.0 (事業費-10%)										
事業期間変動 : B/C=4.9 (事業期間+10%)	B/C=4.9 (事業期間-10%)										
事業の効果等											
<p>①円滑なモビリティの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現道等の時間損失の削減が見込まれる ・当該路線整備により丸亀コミュニティバスの利便性向上が期待される ・JR琴平駅（特急停車駅）・高松空港（第二種空港）へのアクセス向上 <p>②物流効率化の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高松港（重要港湾）へのアクセス向上 ・全国生産量上位品種であるにんにく、レタス、ブロッコリーの流通利便性向上が見込まれる <p>③国土・地域ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常活動圏中心都市へのアクセス向上 <p>④個性ある地域の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要な観光地へのアクセス向上が期待される <p>⑤安全で安心できるくらしの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三次医療施設（県立中央病院、香川大学医学部付属病院、香川小児病院）へのアクセス向上 <p>⑥災害への備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域的な輸送に必要な主要幹線道路として、第一次輸送確保路線に指定されている <p>⑦地球環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CO2の排出削減が見込まれる <p>⑧生活環境の改善・保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NOX、SPM排出量の削減が見込まれる <p>⑨その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイパス整備にあわせ、多数の商業施設が立地し、集客による地域活性化のみならず雇用創出に寄与 ・幅員が狭く、歩道がない現道の交通がバイパスへ交通転換し、交通安全性が向上 ・バイパスの整備にあわせ、道路空間を利用した下水道整備が行われ生活環境が向上 ・暫定2車線区間が4車線化されることで走行環境改善が見込まれる 											

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等：

- ・ 周辺の自治体などから、本事業の整備促進について、積極的な要望活動が続けられている。

県知事の意見：

- ・ 事業継続について、異議はありません。早期に全線4車線化供用が図られることをお願いします。

事業評価監視委員会の意見

「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

(周辺道路の整備状況)

- ・ 昭和62年12月 高松自動車道 善通寺IC-川之江JCT開通
- ・ 平成4年1月 川之江JCT開通により高知自動車道と接続
- ・ 平成4年4月 高松西IC-善通寺IC及び坂出JCT-坂出IC開通により坂出ICで瀬戸中央自動車道と接続
- ・ 平成6年12月 円座バイパス 完成4車線供用
- ・ 平成10年3月 国道11号高松東道路の津田東IC-さぬき三木IC開通
- ・ 平成13年3月 板野IC-津田東IC、三木町・高松市境-高松中央IC開通
同時に国道11号高松東道路のさぬき三木IC-三木町・高松市境間が開通
- ・ 平成14年7月 鳴門IC-板野IC開通により神戸淡路鳴門自動車道と接続
- ・ 平成15年3月 高松中央IC-高松西IC開通により全線開通、同時に高松東IC開通
- ・ 平成18年3月 三豊鳥坂インターチェンジ 供用開始
- ・ 平成20年3月 府中湖スマートIC 社会実験開始
- ・ 平成21年4月 府中湖スマートIC 本格運用開始

(その他)

- ・ 平成元年12月 高松空港 開港
- ・ 平成9年4月 道の駅 空の夢もみの木パーク 登録
- ・ 平成9年10月 道の駅 滝宮 登録
- ・ 平成10年4月 国営讃岐まんのう公園 開園、道の駅 うたづ臨海公園 登録
- ・ 平成14年5月 道の駅 香南楽湯 オープン
- ・ 平成16年4月 綾川町に大型レジャー施設 再開
- ・ 平成20年7月 大型ショッピングセンター オープン

事業の進捗状況、残事業の内容等

用地取得は完了済み、全体の事業進捗率は99%（平成21年度末）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

平成24年度に全線完成4車線供用予定

施設の構造や工法の変更等

中央分離帯部の配水管断面を縮小することにより、コスト縮減を図っている

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業効果及びコスト縮減等の内容、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。